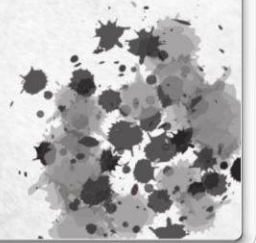




二宮金次郎

～ 誠実とは私心を捨てること～



時代背景

二宮金次郎は江戸時代も後半に入った 1787 年、農家の長男として生まれます。ちょうどその頃、日本は火山の噴火や冷害などの自然災害を受け、凶作により数十万人の人が餓死するなど、全国的に大飢饉に見舞われていました。当然金次郎一家もどん底に突き落とされます。一度人生のどん底を見た一人の青年が約 70 年をかけ、約 600 を超える村々の復興に携わっていくストーリーを、皆さんと一緒に勉強していきます。また、金次郎を突き動かしたものは何なのかを共に見ていきたいと思ひます。

偉人の生涯



二宮金次郎(尊徳) 1787～1856 日本 藩財政の立て直し

Keyword 「報徳思想」「小を積んで大を為す(積小為大)」

西 暦	年齢	生涯
1787	0	相模国足柄上郡栢山村(現在の [] 小田原市) に生まれる
1791	4	酒匂川の決壊により家が流される
1800	13	父である利右衛門が病気で亡くなる
1802	15	母である好(よし)が亡くなる
		2人の弟は母型の実家に預け、金次郎自身は叔父の家で暮らすことになる
1806	19	荒廃した実家に戻り、生家の立て直しを図る
1808	21	小田原藩家老の服部家の立て直しを依頼される
1823	36	桜町の再興開始
1836	49	小田原の飢饉を救うように命じられる
1838	51	下館藩の所領を再興
1856	69	心筋梗塞?? 死去



偉人の功績・思想

★たらいの水 湯船のお湯をかき寄せれば、自分のほうに引き寄せられるが、その後にお湯は向こうに流れていってしまう。反対にお湯を押し出せば、自分の前から流れて行くが、少し後にはお湯が自分の方に戻ってくる。少し押せば少し返り、大きく押せば大きく返る。奪うに益はなく、譲に益がある。」

★報徳思想 「宗教の教えと農業の実践を組み合わせた、豊かに生きるための知恵」

① []	常に誠実な心を持って行動すること
② []	至誠の状態にありながら、日常生活を行っていくこと。単なる労働を表すものではない
③ []	至誠を保った状態で、自ずと贅沢を慎み、無駄のない消費をするということ
④ []	分度した上でさらに余った財産や収益を他人へと譲ること

私利私欲に溺れずに社会へ貢献することを考えていれば、

いずれ自らにその利益が帰ってくる

★報徳思想が育まれた激動の幼少期

5歳：酒匂川の氾濫で、尊徳の家を含む一帯が、濁流により水没してしまう

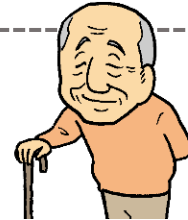
14歳：父親が病に倒れ帰らぬ人となる

16歳：父の後を追うように、母親も亡くなってしまう

絶望的な状況の中で尊徳の唯一の楽しみが [] でした。朝から晩まで農業に勤め、夜は勉強のために本を読みふける生活をしていたのだが…

[金次郎の祖父]

読書のための明り取りの [] が勿体無い…勉強なんてやめなさい



Think 祖父にこのように言われた金次郎が取った行動とは

それだけでなく、田植えで余って捨てられた苗を用水堀に植えて米一俵の収穫をするなど、がむしゃらに働くのではなく、どうしたら効率よく成果が出るのかを尊徳は身をもって実践していた

積小為大

[参考]：二宮金次郎の名言からの学び (<https://tomo8language.com/kinjiro-ninomiya/>)



偉人から学ぶこと

Work 1 大きな目標を達成するためには身近な目標から達成していこう [積小為大]

目標を設定して達成することは決して簡単なことではありません。現時点で具体的な目標を持つことができていない生徒も多いと思います。そこで今日は、大きなことを成し遂げる為に、小さな目標を設定し、小さな目標の達成が大きな目標の達成につながるよう計画を立ててみましょう！まずはしっかり叶えたい大目標を明確にもてるように！（ex なりたい自分 夢の実現 興味のあることなら何でも OK です）

大目標：



中目標：



小目標：

Work 2 自分のためではなく他の人に何ができるか [積小為大]

金次郎の思想は、“give and take”ではなく、“give and give”と言われるように、自分の利益よりも人の利益を優先することを常に大切にしていた。しかも、おごることなく何とも“誠実”な姿勢であったため、立場の弱い農民だけでなく多くの人々が金次郎を慕ったとされている。

[みなさんも友人の悩みを聞いて、解決するための提案を考えてみよう！]（悩みを周りの子に打ち明けてみよう）

悩 み：




提案①：



提案②：


★誠実とは私心は捨てること

Work  偉人が残した名言を通して、彼らの生きざまに触れてみましょう

世の中知恵があっても学があっても、至誠と実行がなければ事は成らない

誠実にして、はじめてわざわざいを福に変えることができる。術策は役に立たない

この2つは特に大切な考え方だと思います。ひたすら勉強をしたところで、知っているだけではどうにもなりません。いくら毎日成功するイメージを描いていたって、行動を起こさなければ絶対に成功しません。いくら行動を起こしたって、誠実さがなければ、周りの人はついてこず、必ず失敗します。若いころに大切なのは… “この人についていきたい” と思える人に出会えるかどうかだと思います。

Challenge  みなさんはどんな上司になりたいですか、またどんな先輩が苦手ですか

理想の上司

-
-
-



苦手な先輩

-
-
-

column  「人の心に種を植えた続けられた生まれながらの百姓」

[] が日本経済の父なら、
日本経済の祖父と呼ばれるのが、この二宮金次郎です。
幼少期に多くのものを失いながらも、約 600 もの農村を
復興させ、自分ではなく他人のために生きた金次郎の言葉です。
いかに人と人とのつながりが大切かを痛感できると思います。
そして、人々を結びつけるものは、誠実さなのだろうと感じます。多くの人が金次郎を慕ったのは、
彼が常に誠実であり、自分の利益よりも人の利益を優先させ、農民たちとともに汗、水をたらし、
苦しみを分かち合ったからだだと思います。give and take ではなく give and give の精神をもって
他者に接することができる人になってほしいと思います。

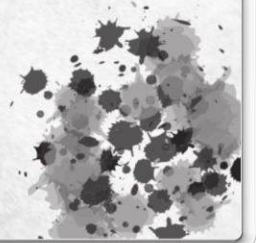
心田開墾

心の田畑さえ開墾できれば、世間の荒地を開くこと難しからず



二宮金次郎

～ 誠実とは私心を捨てること～



時代背景

二宮金次郎は江戸時代も後半に入った1787年、農家の長男として生まれます。ちょうどその頃、日本は火山の噴火や冷害などの自然災害を受け、凶作により数十万人の人が餓死するなど、全国的に大飢饉に見舞われていました。当然金次郎一家もどん底に突き落とされます。一度人生のどん底を見た一人の青年が約70年をかけ、約600を超える村々の復興に携わっていくストーリーを、皆さんと一緒に勉強していきます。また、金次郎を突き動かしたものは何なのかを共に見ていきたいと思います。

偉人の生涯



二宮金次郎(尊徳) 1787～1856 日本 藩財政の立て直し

Keyword 「報徳思想」「小を積んで大を為す(積小為大)」

西 暦	年齢	生涯
1787	0	相模国足柄上郡栢山村(現在の[神奈川県]小田原市)に生まれる
1791	4	酒匂川の決壊により家が流される
1800	13	父である利右衛門が病気で亡くなる
1802	15	母である好(よし)が亡くなる
		2人の弟は母型の実家に預け、金次郎自身は叔父の家で暮らすことになる
1806	19	荒廃した実家に戻り、生家の立て直しを図る
1808	21	小田原藩家老の服部家の立て直しを依頼される
1823	36	桜町の再興開始
1836	49	小田原の飢饉を救うように命じられる
1838	51	下館藩の所領を再興
1856	69	心筋梗塞?? 死去



偉人の功績・思想

★たらいの水 湯船のお湯をかき寄せれば、自分のほうに引き寄せられるが、その後にお湯は向こうに流れていってしまう。反対にお湯を押し出せば、自分の前から流れて行くが、少し後にはお湯が自分の方に戻ってくる。少し押せば少し返り、大きく押せば大きく返る。奪うに益はなく、譲に益がある。」

★報徳思想 「宗教の教えと農業の実践を組み合わせた、豊かに生きるための知恵」

① [至誠]	常に誠実な心を持って行動すること
② [勤労]	至誠の状態にありながら、日常生活を行っていくこと。単なる労働を表すものではない
③ [分度]	至誠を保った状態で、自ずと贅沢を慎み、無駄のない消費をするということ
④ [推譲]	分度した上でさらに余った財産や収益を他人へと譲ること

私利私欲に溺れずに社会へ貢献することを考えていれば、

いずれ自らにその利益が帰ってくる

★報徳思想が育まれた激動の幼少期

5歳：酒匂川の氾濫で、尊徳の家を含む一帯が、濁流により水没してしまう

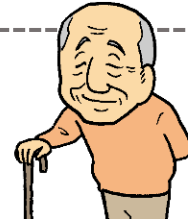
14歳：父親が病に倒れ帰らぬ人となる

16歳：父の後を追うように、母親も亡くなってしまう

絶望的な状況の中で尊徳の唯一の楽しみが [勉強] でした。朝から晩まで農業に勤め、夜は勉強のために本を読みふける生活をしていたのだが…

[金次郎の祖父]

読書のための明り取りの [油] が勿体無い…勉強なんてやめなさい



Think 祖父にこのように言われた金次郎が取った行動とは

堤防に菜種を植えて、収穫した種を油屋さんで灯明油に替えてもらった

それだけでなく、田植えで余って捨てられた苗を用水堀に植えて米一俵の収穫をするなど、がむしゃらに働くのではなく、どうしたら効率よく成果が出るのかを尊徳は身をもって実践していた

積小為大

[参考]：二宮金次郎の名言からの学び (<https://tomo8language.com/kinjiro-ninomiya/>)



偉人から学ぶこと

Work 1 大きな目標を達成するためには身近な目標から達成していこう [積小為大]

目標を設定して達成することは決して簡単なことではありません。現時点で具体的な目標を持つことができていない生徒も多いと思います。そこで今日は、大きなことを成し遂げる為に、小さな目標を設定し、小さな目標の達成が大きな目標の達成につながるよう計画を立ててみましょう！まずはしっかり叶えたい大目標を明確にもてるように！（ex なりたい自分 夢の実現 興味のあることなら何でも OK です）

大目標： **自分の好きな時間に起きて、自分の好きな時間に自由に働く生活を手に入れる**



中目標： **年収 2000 万、月収 150 万**



小目標： **独立に向けた勉強のために月 5 冊の本を読む**

Work 2 自分のためではなく他の人に何ができるか [積小為大]

金次郎の思想は、“give and take”ではなく、“give and give”と言われるように、自分の利益よりも人の利益を優先することを常に大切にしていた。しかも、おごることなく何とも“誠実”な姿勢であったため、立場の弱い農民だけでなく多くの人々が金次郎を慕ったとされている。

[みなさんも友人の悩みを聞いて、解決するための提案を考えてみよう！] (悩みを周りの子に打ち明けてみよう)

悩み： **将来の夢がない、やってみたいことがない、この先どうすれば良いのだろう…**




提案①： **逆にやりたくないことをノートに書きだしてみるのはどう？？**



提案②： **海外に 1 人旅とかいくのもいいんじゃない？？**


★誠実とは私心は捨てること

Work  偉人が残した名言を通して、彼らの生きざまに触れてみましょう

世の中知恵があっても学があっても、至誠と実行がなければ事は成らない

誠実にして、はじめてわざわざを福に変えることができる。術策は役に立たない

この2つは特に大切な考え方だと思います。ひたすら勉強をしたところで、知っているだけではどうにもなりません。いくら毎日成功するイメージを描いていたって、行動を起こさなければ絶対に成功しません。いくら行動を起こしたって、誠実さがなければ、周りの人はついてこず、必ず失敗します。若いころに大切なのは… “この人についていきたい” と思える人に出会えるかどうかだと思います。

Challenge  みなさんはどんな上司になりたいですか、またどんな先輩が苦手ですか

理想の上司

- 指示がわかりやすい（指示が的確で知っていることをシェアしてくれる人）
- 決断力がある人（いざという時に素早く選択ができる人）
- 仕事を楽しんでいる人（職場に楽しい雰囲気を作ってくれる人）



苦手な先輩

- 悪口や愚痴、ゴシップなどを大声で話している人
- 手柄や成果をすべて自分のものにする人
- 部下の仕事に干渉しすぎる人

column  「人の心に種を植えた生まれながらの百姓」

[渋沢栄一] が日本経済の父なら、日本経済の祖父と呼ばれるのが、この二宮金次郎です。幼少期に多くのものを失いながらも、約 600 もの農村を復興させ、自分ではなく他人のために生きた金次郎の言葉です。いかに人と人とのつながりが大切かを痛感できると思います。そして、人々を結びつけるものは、誠実さなのだろうと感じます。多くの人が金次郎を慕ったのは、彼が常に誠実であり、自分の利益よりも人の利益を優先させ、農民たちとともに汗、水をたらし、苦しみを分かち合ったからだだと思います。give and take ではなく give and give の精神をもって他者に接することができる人になってほしいと思います。

心田開墾

心の田畑さえ開墾できれば、世間の荒地を開くこと難しからず